



広島大学

# 教育課程論

# 教育

C U R R I C U L U M

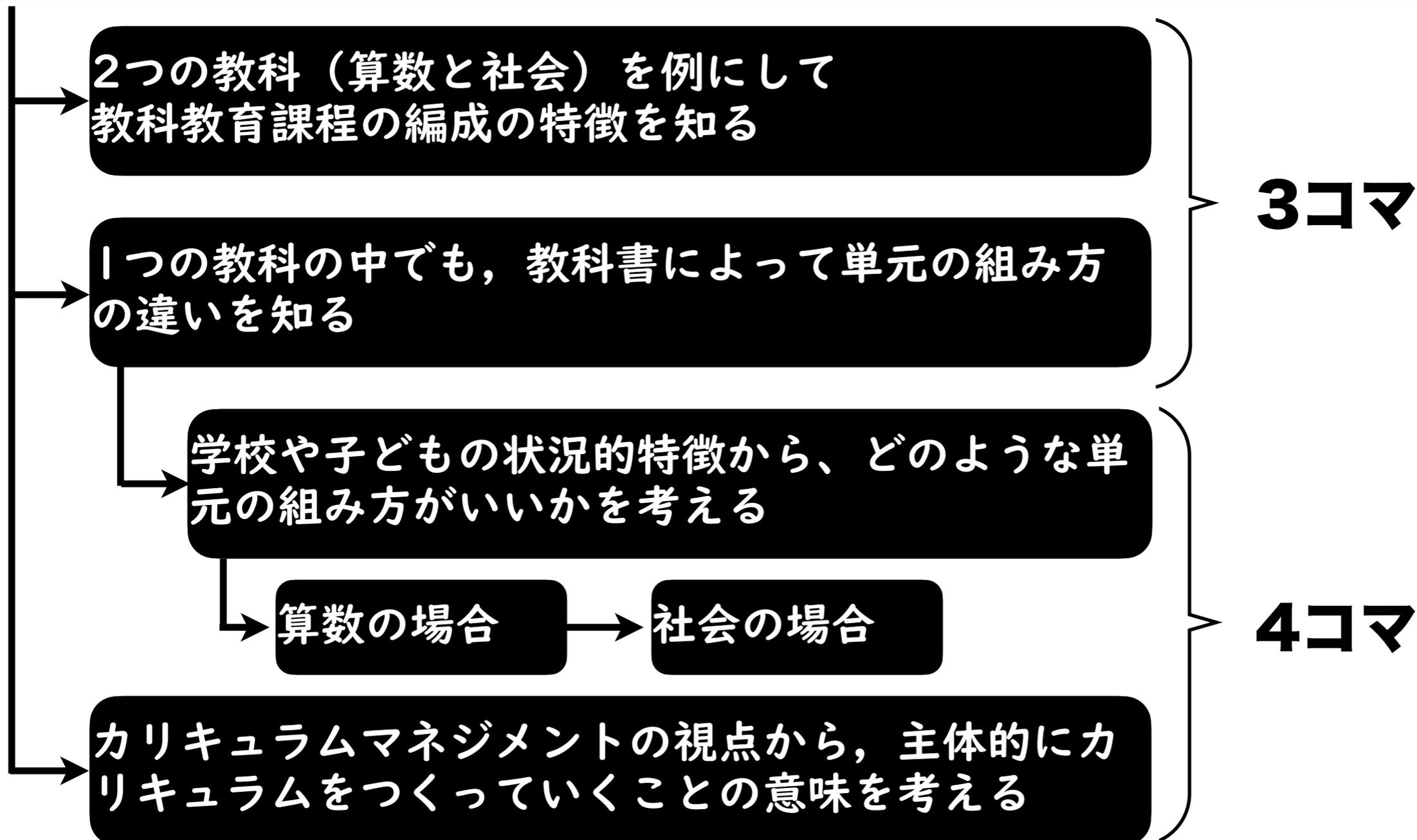
# 課程

#7 教育課程の編制原理 #8 小学校の教育課程

南浦 涼介

# 0 今日の流れ

- 小学校教育課程における教科内の編成論理を考えることができる。
- 小学校教育課程における教科の単元の解釈の違いを学校のタイプから考えることができる。
- カリキュラムマネジメントの側面から、教師や学校がカリキュラムをつくるという観点を考えることができる。



2つの教科を比べてみましょう

算数/数学

社会

受験勉強をしたときに、それぞれの勉強の仕方の違いはどうだったでしょうか？

苦手だったところからのリカバリの苦労はどうでしたか？

2つの教科の「違い」がカリキュラム上どのようにあるのかを  
考えましょう

算数/数学

社会

「算数」と「社会」の教育課程の編成の発想、

- ①共通しているのは何でしょうか？
- ②異なっているのは何でしょうか？

1. Teamsにある資料Iをみて、算数と数学のカリキュラムを概観しましょう

- ・まず、南浦と一緒に全体で算数と社会科を紹介をしていきます。  
(ぜひコメントスクリーンで感想や思い出を共有しながらどうぞ)

2. 「算数」と「社会」の教育課程編成の発想の差異について、話合います。  
(グループの場合はペアで、個人の場合はコメントスクリーンで  
援護してみてください)

# 算数

## A 数と計算

第1学年

数の概念

(整数・少数・分数)

計算の意味

第2学年

加法 減法

乗法 除法

第3学年

概数と見積もり

第4学年

[D数量関係]

式の表現と読み

四則に関して

成り立つ性質

第5学年

第6学年

## B 図形

図形の種類

(平面図形・立体図形)

図形の構成・分解

図形の性質

[B量と測定]

角

図形の計算

(面積・体積)

## C 測定

量の概念

(長さ・重さなど)

量の大きさの比較

量の単位

量の測定

## C 変化と関係

[B量と測定]

単位量あたりの  
大きさ

速さ

[D数量関係]

割合, 比

比例, 反比例

## D データの活用

[B量と測定]

測定値の平均

[D数量関係]

表・グラフ

	数の構成と表し方	加法・減法	乗法
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個数を比べること</li> <li>● 個数や順番を数えること</li> <li>● 数の大小, 順序と数直線</li> <li>● 2位数の表し方</li> <li>● 簡単な場合の3位数の表し方</li> <li>● 十を単位とした数の見方</li> <li>● まとめて数えたり等分したりすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 加法, 減法が用いられる場合とそれらの意味</li> <li>● 加法, 減法の式</li> <li>● 1位数の加法とその逆の減法の計算</li> <li>● 簡単な場合の2位数などの加法, 減法</li> </ul>	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まとめて数えたり, 分類して数えたりすること</li> <li>● 十進位取り記数法</li> <li>● 数の相対的な大きさ</li> <li>● 一つの数をほかの数の積としてみる</li> <li>● 数による分類整理</li> <li>● <math>1/2</math>, <math>1/3</math>など簡単な分数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2位数の加法とその逆の減法</li> <li>● 簡単な場合の3位数などの加法, 減法</li> <li>● 加法や減法に関して成り立つ性質</li> <li>● 加法と減法との相互関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 乗法が用いられる場合とその意味</li> <li>● 乗法の式</li> <li>● 乗法に関して成り立つ簡単な性質</li> <li>● 乗法九九</li> <li>● 簡単な場合の2位数と1位数との乗法</li> </ul>

# 算数

## A 数と計算

第1学年

数の概念  
(整数・少数・分数)

第2学年

計算の意味  
加法 減法  
乗法 除法

第3学年

概数と見積もり

第4学年

[D数量関係]  
式の表現と読み  
四則に関して  
成り立つ性質

第5学年

第6学年

## B 図形

図形の種類  
(平面図形・立体図形)  
図形の構成・分解  
図形の性質

[B量と測定]

角

図形の計算  
(面積・体積)

## C 測定

量の概念  
(長さ・重さなど)  
量の大きさの比較  
量の単位  
量の測定

## C 変化と関係

[B量と測定]  
単位量あたりの  
大きさ  
速さ

[D数量関係]  
割合, 比  
比例, 反比例

## D データの活用

[B量と測定]  
測定値の平均

[D数量関係]  
表・グラフ

	地理的環境と人々の生活			現代社会のしくみや働きと人々の生活			歴史と人々の生活		
	地域	日本	世界	経済・産業	政治	国際関係	地域	日本	世界
第3学年	身近な地域や市の様子			地域の生産や販売の仕事	地域の安全を守る働き		市の様子の移り変わり		
第4学年	県の様子 県内の特色ある地域の様子			人々の健康や生活環境を支える事業	自然災害から人々を守る		県内の伝統や文化 先人の働き		
第5学年		国土の様子と国民生活  国土の自然環境と国民生活		農業や水産業における食糧生産 工業生産 情報と産業の関わり					
第6学年				国土の自然環境と国民生活	我が国の政治の働き	グローバル化する世界と日本の役割		我が国の歴史上の主な事象	

2つの教科の「違い」がカリキュラム上どのようにあるのかを  
考えましょう

算数/数学

社会

「算数」と「社会」の教育課程の編成の発想、

- ①共通しているのは何でしょうか？
- ②異なっているのは何でしょうか？

1. Teamsにある資料Iをみて、算数と数学のカリキュラムを概観しましょう

- ・まず、南浦と一緒に全体で算数と社会科を紹介をしていきます。  
(ぜひコメントスクリーンで感想や思い出を共有しながらどうぞ)

2. 「算数」と「社会」の教育課程編成の発想の差異について、話合います。  
(グループの場合はペアで、個人の場合はコメントスクリーンで  
援護してみてください)



**階段モデル**  
易→難

①理科

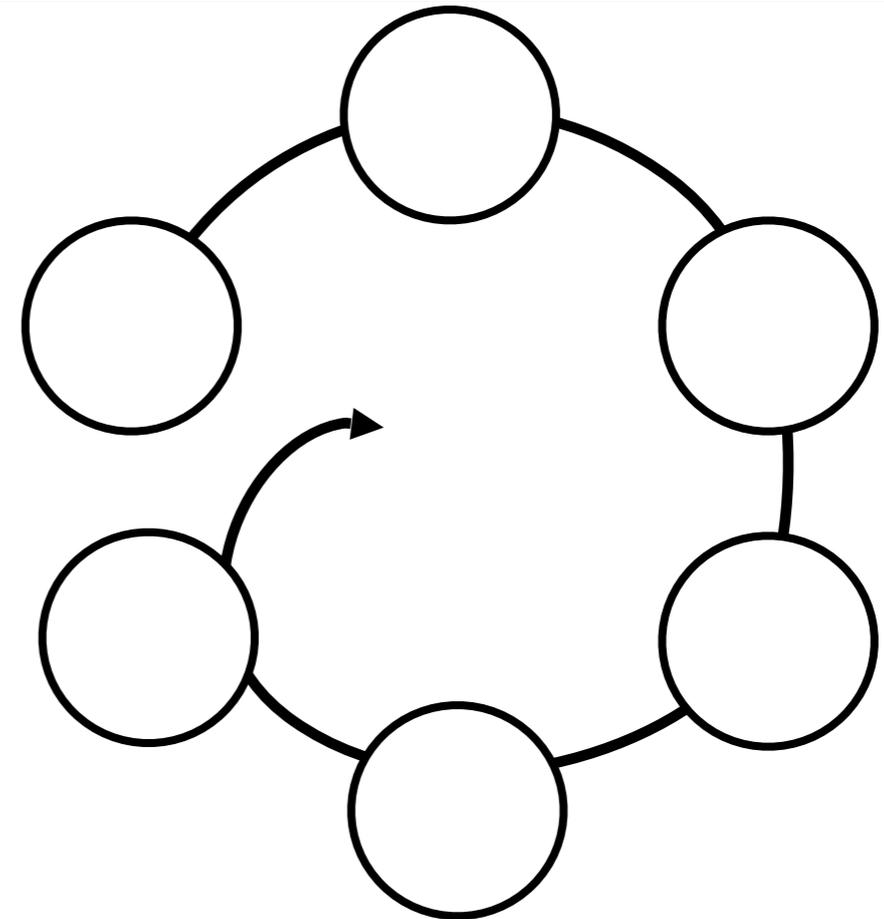
②国語

③外国語

④音楽

⑤体育

⑥学活



**螺旋モデル**  
周縁→中心

算数・社会以外も考えてみましょう  
何はどちらのタイプになるのでしょうか？

一元的な尺度による発達・習熟  
系統主義との親和性  
自然科学領域との親和性  
効率性との接点

多元的な尺度による発達・習熟  
経験主義との親和性  
人文社会科学・芸術領域との親和性  
共同体性との接点

算数の教科書の中ではどのような違いになっているのでしょうか？

算数/数学

二つの会社の教科書を比較します

★ワークシートのp.2の「啓林館」「教育出版」のそれぞれのところにある「導入」「定理の獲得」「応用」「発展」のところを手分けして埋めましょう

- (簡単に) どのような内容について、どのような問題が、など
- グループで→手分けして2つに分けて作成する(1/2, 1/2 など)
- 個人で→できれば比較しながら。難しいときはどちらかから。できるところまででも。

## 算数

## 小学校5年生 平均 ア社

	目的	問題や解決方法の特徴
導入	生活の中にある平均に関わる現象を見つける	
定理の獲得	「平均」の発想と求め方を理解する	
応用	さまざまな平均の問題に取り組む	
発展	生活の中にある平均を用いる問題を解く	

## ア社

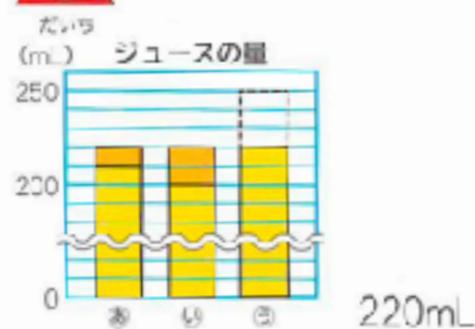
### 10 平均とその利用

#### 1 平均

1 3個のグレープフルーツからとれたジュースの量は、右のようでした。グレープフルーツ1個から、およそどれくらいのジュースがとれるとみればよいですか。



だいち: いらばん多い③から、移してならすと……



ひなた: 3個分をあわせてから、1個分を求めると……

3個分のジュースをあわせると、  
 $210 + 200 + 250 = 660$   
 だから、1個分は  
 $660 \div 3 = 220$

いくつかの数量を、同じ大きさになるようにならしたものを、それらの数量の平均といいます。

1のグレープフルーツからとれるジュースの量は、1個平均220mLといえます。

#### まとめ 平均の求め方

平均は、数量の合計を個数でわれば求められます。  
**平均 = 合計 ÷ 個数**

3 先週の月曜日から金曜日までの間に、5年1組の人が図書室から借りた本のさつ数を調べたら、次のようでした。

曜日	月	火	水	木	金
さつ数	8	6	5	0	9

先週は、1日平均何さつ借りたことになりますか。



だいち: 0さつの日を考えないことにしました。

$$(8 + 6 + 5 + 9) \div 4 = 7$$

7さつ

ひなた: 0さつの日も入れて考えました。

$$(8 + 6 + 5 + 0 + 9) \div 5 = 5.6$$

5.6さつ

5 箱に30個のトマトがはいっています。その中から4個取り出して重さをはかると、次のようでした。

160g 158g 158g 164g

トマト30個の重さは、何kgになると考えられますか。



かいと: トマト4個の重さから、1個平均何gかを求められるね。

# 2 単元の違いを考えてみましょう

## イ社

**はる** ◆多いところから少ないところへ移して、量をならす。

何mL移せばいいのかな。

**かえで**

**ゆき** ◆全部のジュースを合わせて、5等分する。

ゆきさんの考えを式で表すと、どうなるかな。

**みなと**

1 ならした量を計算で求める方法を考えてみましょう。

$$\text{式 } (80+100+75+80+65) \div \square = \square$$

ジュースの量の合計      個数    ならした量

答え \_\_\_\_\_

### ◆平均

いくつかの数や量を等しい大きさになるようにならしたものを、もとの数や量の**平均**といいます。

$$\text{平均} = \text{合計} \div \text{個数}$$

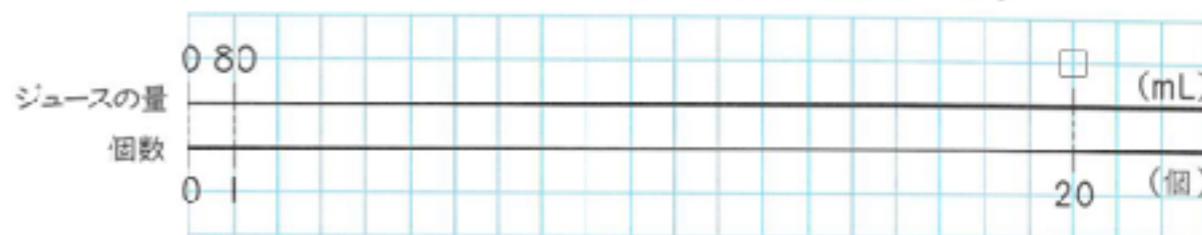


ならした量を求めるときは、全部合わせてから等分すると考えやすいね。

2 オレンジは、全部で20個あります。



1個のオレンジからとれるジュースの量の平均を80mLとすると、オレンジ全部では何mLのジュースがとれると考えられるでしょうか。



数直線のかき方 p.290

$$\text{式 } \underbrace{80}_{\text{平均}} \times \underbrace{\square}_{\text{個数}} = \underbrace{\square}_{\text{合計}}$$

答え \_\_\_\_\_

2

1のオレンジをもう1個しぼったら、83mLのジュースがとれました。



このオレンジと、先にしぼった5個のオレンジを合わせて、6個のオレンジからとれるジュースの量の平均を求めましょう。

1 下の2人の考えは、どちらが正しいでしょうか。



みなと

◆先にしぼった5個の平均は80mLだったから…。

$$(80+83) \div 2 = 81.5$$

答え 81.5mL



かえで

◆先にしぼった5個の合計の量は平均×個数で求められるから…。

$$(80 \times 5 + 83) \div 6 = 80.5$$

答え 80.5mL

## あ社 シェア大・大手

## い社 販路拡大希望

共通して「日常の問題による動機づけ」→「定義の獲得」→「応用」→「日常の問題に適用する」という展開がある

## 応用問題における特徴性

- 一位数による平均
- 0が入るときの平均
- 二位・三位数による平均
- 2グループの平均

## 系統的理解の志向

位取りの少→多  
など、段階的に積み上げるプロセスが強い

## 応用問題における特徴性

- 1個のみかんのジュースの平均→20個の全体量
- もう1つ加わる場合
- 0が入るときの平均

## 問題解決の志向

複雑な事象を一緒に考えて検討していくプロセスが強い

## 発展問題における特徴性

- 歩幅の平均
- 防災マップにおける避難所までの歩数計算

## 発展問題における特徴性

- 歩幅の平均
- 校舎の長さを歩幅で測る

この違いは、なぜ生まれるのだろうか？  
学習指導要領をどのように捉えているのだろうか？

## 考える力（探究的学び）の重視

学んだことを人生や  
社会に活かそうとする  
学びに向かう力、  
人間性など



実際の社会や  
生活で生きて働く  
知識及び技能

未知の状況にも  
対応できる  
思考力、判断力、  
表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、  
三つの力をバランスよく育みます。

一つ一つの知識がつながり、  
「わかった!」「おもしろい!」  
と思える授業に



見通しをもって、  
粘り強く取り組む力が  
身に付く授業に

周りの人たちと共に考え、  
学び、新しい発見や豊かな  
発想が生まれる授業に



自分の学びを振り返り、  
次の学びや生活に生かす力  
を育む授業に

### 何を学ぶか どう学ぶか 何ができるか?

「ホンモノの知」（真正な知識）を学ぶこと（生活や社会との関係性の中で知を探る）

「協働の知」（関係性・間主観性の知）を育むこと（知識は個人と個人の間にある）

## 前回の学校のタイプ分けを利用しましょう

	A小学校	B小学校	C小学校	D小学校
地域の様子	<p><b>ニュータウンの小学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ニュータウンということもあり，地域には核家族が多く，30代～40代の会社員世代が多く住んでいる。</li> <li>PTA活動も行われているが，転入世代・勤労世代が多く，学校の活動を地域・保護者に周知してもらうことも課題である。</li> </ul>	<p><b>古い街の小学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>城下町の中心部に位置しており，周りには古くからの家が多数存在している。</li> <li>少子高齢化の波を受け，近年地域の高齢化，地域の空洞化の問題が浮上している。</li> <li>街と小学校は歴史の中で密接につながっており，地域の中の小学校と意識がある。</li> </ul>	<p><b>山間部の小学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山間部の学校である。学校の周辺は基本的に田園地帯と古くからの集落が広がる。</li> <li>少子高齢化，過疎化の波を受け，地域の高齢化や産業の高齢化が非常に進んでいる。</li> <li>過疎化しているが，地域が学校に寄せる期待は大きく，協力的。</li> </ul>	<p><b>市街地と公営団地</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市部にある小学校。校区内には県営・市営団地も立地し，経済的にそれほど豊かでない家庭が入居している場合もある。また，外国人家庭の姿も見える。</li> <li>特に団地内は近年高齢化・国際化しつつあるが，そうした家庭が学校に寄せる期待は大きい。</li> </ul>
学校の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニュータウンの中で転入生が非常に多い。</li> <li>割合収入の安定した家族が多く，子どもたちの教育に意識の高い保護者が多い。高学年になると子どもたちの多くが進学塾に通い始める。</li> <li>地域のつながりはあまりなく，学校と地域がいかに協力的な関係をつくるかが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の小学校という感覚が強いため，子どもたちの教育についての意識も高い。</li> <li>学校と地域が密接に関わることもあって落ち着いた学校状況がある。</li> <li>地域の中心校ということもあり，新しいテーマを提案したり検討したりすることを行政から請け負うことも多</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校は複式学級制をとっており，全校で30名程度である。3・4年クラスは10名である。</li> <li>子どもたちは高校から家を出て一人暮らしをすることも多く，また，就職後県外に出ていくことも多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の国際化，経済格差，社会格差があり，子どもたちの教育に十分に力を注ぐことのできない家もある。</li> <li>子どもたちはとても元気で素直な気質を持つ子どもが多い。いろいろな子どもたちが混ざり合う良さを高学年になると感じることも。</li> <li>力量のある教員も多く，職員の団結力も高い。</li> </ul>

# 2 単元の違いを考えてみましょう 算数編

それぞれの教科書が合うのはどんな子どもたち，小学校だと思えるか？  
教科書採択者として，検討しましょう

	教科書会社 ①社 営業マン	教科書会社 ②社 営業マン	教科書採択者 (A～Dタイプ)	教科書採択者 (A～Dタイプ)
4人の場合	○	○	○	○
3人の場合	○	○	○ 学校としてどれを採択するかを 決める	
2人の場合	○ 委託販売者として どちらもを売り，良さを語る		○ 学校としてどれを採択するかを 決める	
1人の場合	教科書のタイプと学校にはどんな マッチングのパターンが考えられるかを予測・分析・解説する 例) 困難校だからこそ「○○」を採択すべき…その理由は…			

padlet①で報告

なぜ  
その採択なのか  
意志決定の理由を  
書く

マッチングの考え方  
にはどういうものか  
あるのかを解説する

注) 実際の現行の教科書採択は，学校ごとではなく，自治体単位です

# 3 単元の違いを考えてみましょう 社会科編

A小学校～D小学校の教員として、小学校3年生の「地域の生産や販売の仕事」をX案～Z案のどれで行いますか？

	A小学校	B小学校	C小学校	D小学校
地域の様子	<p>ニュータウンの小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ニュータウンということもあり、地域には核家族が多く、30代～40代の会社員世代が多く住んでいる。</li> <li>PTA活動も行われているが、転入世代・勤労世代が多く、学校の活動を地域・保護者に周知してもらうことも課題である。</li> </ul>	<p>古い街の小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>城下町の中心部に位置しており、周りには古くからの家が多数存在している。</li> <li>少子高齢化の波を受け、近年地域の高齢化、地域の空洞化の問題が浮上している。</li> <li>街と小学校は歴史の中で密接につながっており、地域の中の小学校と意識がある。</li> </ul>	<p>山間部の小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山間部の学校である。学校の周辺は基本的に田園地帯と古くからの集落が広がる。</li> <li>少子高齢化、過疎化の波を受け、地域の高齢化や産業の高齢化が非常に進んでいる。</li> <li>過疎化しているが、地域が学校に寄せる期待は大きく、協力的。</li> </ul>	<p>市街地と公営団地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市部にある小学校。校区内には県営・市営団地も立地し、経済的にそれほど豊かでない家庭が同居している場合もある。また、外国人家庭の姿も見える。</li> <li>特に団地内は近年高齢化・国際化しつつあるが、そうした家庭が学校に寄せる期待は大きい。</li> </ul>
学校の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニュータウンの中で転入生が非常に多い。</li> <li>割合収入の安定した家族が多く、子どもたちの教育に意識の高い保護者が多い。高学年になると子どもたちの多くが進学塾に通い始める。</li> <li>地域のつながりはあまりなく、学校と地域がいかに協力的な関係をつくるかが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の小学校という感覚が強いため、子どもたちの教育についての意識も高い。</li> <li>学校と地域が密接に関わることもあって落ち着いた学校状況がある。</li> <li>地域の中心校ということもあり、新しいテーマを提案したり検討したりすることを行政から請け負うことも多</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校は複式学級制をとっており、全校で30名程度である。3・4年クラスは10名である。</li> <li>子どもたちは高校から家を出て一人暮らしをすることも多く、また、就職後県外に出ていくことも多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の国際化、経済格差、社会格差があり、子どもたちの教育に十分に力を注ぐことのできない家もある。</li> <li>子どもたちはとても元気で素直な気質を持つ子どもが多い。いろいろな子どもたちが混ざり合う良さを高学年になると感じることも。</li> <li>力量のある教員も多く、職員の団結力も高い。</li> </ul>

**X案**  
地域にやさしくこたえます！  
△小学校3年〇組商店！

**Y案**  
対決！ 3年〇組販売合戦

**Z案**  
難問解決！ 3年〇組お助け隊  
さびれゆく商店(街)を救え！

### 概要

- クラスで「3年○組商店」をつくることを通して、「どんな形態の商店が、地域にとって最も適しているか？」を考えていく。
- また、それによって、地域の実情に合わせた商店のあり方を知り、考える。

### 子どもたちに到達させたいこと：子どもたちの商店の見方を変える。

「お客さんが来て、ものを売るのがお店の仕事」



「お客さんに来てもらって商品売るだけが『商店』ではない！ お客のニーズを考えることで、お店の人は様々な形態の商店を作り出すことができている」

### 活用する学習の素材案

- 地域の一般的商店
- インターネット販売（「商店」という設備はないが、ネットを通してさまざまな商品を取り扱い、発想可能）
- 無人販売所
- 「三河屋のサブちゃん（byサザエさん）」の御用聞き販売（お客のところに 販売者が訪問して販売する）

## 概要

- 班対抗のお店屋さんごっこを通して、「お客さんに来てもらうためのより良い方法にはどんな方法があるだろう？」「なぜうまくいくのだろう？」を考える。
- それによって「もっとうまく売るための販売の方法を知りたい」という意欲を高め、それをもって、身の周りの商店の販売方法のくふうを知っていく。

## 子どもたちに到達させたいこと：「ごっこ活動」で体験的に商店の販売を理解する。

商店の実際の様子を理解することで、体験で得られた「消費者の様々なニーズに合わせて販売の方法をくふうしている」ことと、実社会の事実とをつなげる。

## 活用する学習の素材案

- 班対抗の商店ごっこ
- スーパーマーケットなどの実際の商店

## 概要

- 最近，地方の商店（街）は，ショッピングモールやチェーン店などの勢いに押され，衰退の一途をたどっている。あるいは人口減の中で商店不在地域も多い。
- 「商店はなぜなくなってしまうのか，これからの商店は，街づくりはどうあればいいのか」を考え，これからの商店のありかた，その販売のくふうなどについて考え，提案していく。

## 子どもたちに到達させたいこと：問題解決の能力を育てる

商店街が寂れていく理由，市民（町の人たち）のニーズを考えながら，販売の方法を含めて，これからの商店街のありかたを考えていくことができる。

## 活用する学習の素材案

- 衰退する商店街のさまざまな人から，問題を知る
- 市町村の商工会の人と一緒に，解決案を考える
- ショッピングモールや郊外型チェーン店になぜ行くのか，そこにある魅力と，近くにある商店の魅力の共通点や違いを考える

# 3 単元の違いを考えてみましょう 社会科編

A小学校～D小学校の教員として、小学校3年生の「地域の生産や販売の仕事」をX案～Z案のどれで行いますか？

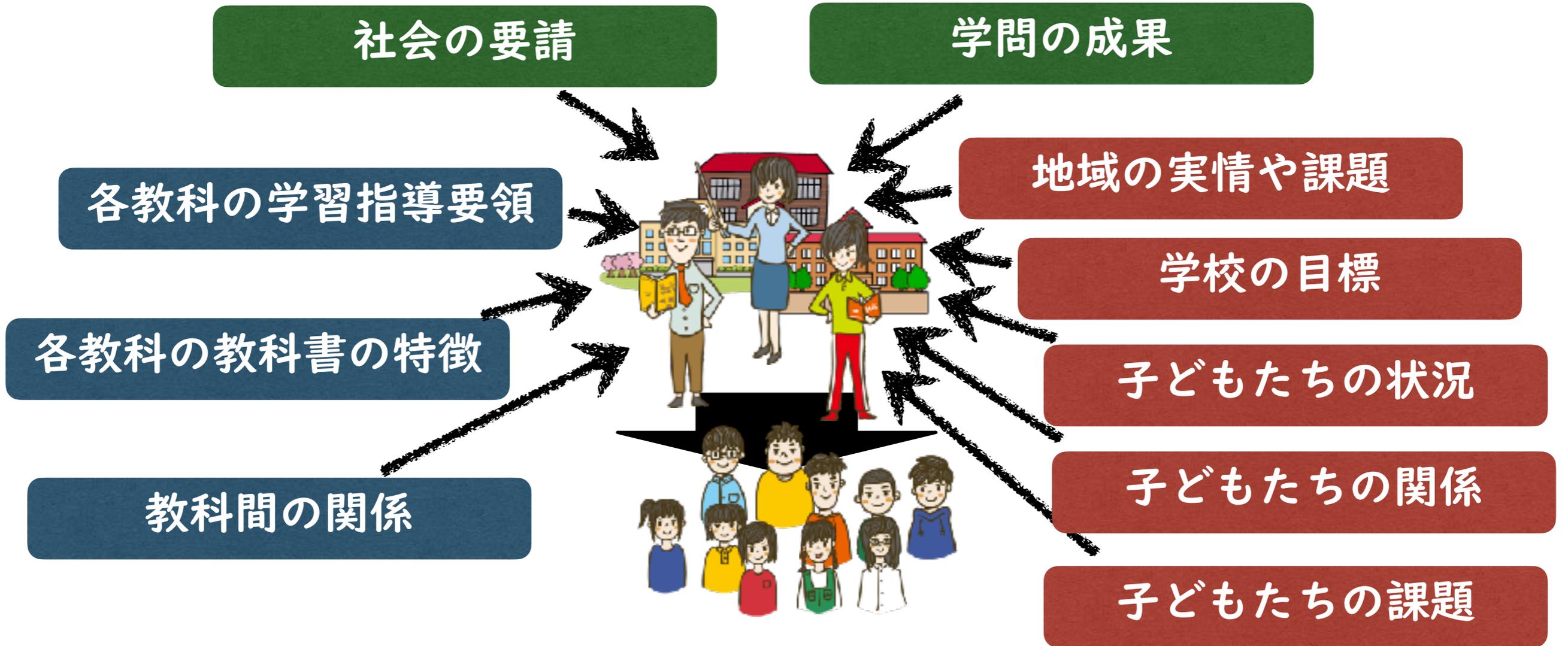
X案 地域にやさしくこたえます！ △小学校3年〇組商店！	Y案 対決！ 3年〇組販売合戦	Z案 問題解決！ 3年〇組お助け隊、さびれゆく商店を救え！
<p><b>概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラスで「3年〇組商店」をつくることを通して、「どんな形態の商店が、地域にとって最も適しているか？」を考えていく。</li> <li>また、それによって、地域の実情に合わせた商店のあり方を知り、考える。</li> </ul> <p><b>子どもたちに到達させたいこと！子どもたちの商店の見方を変える。</b></p> <p>「お客さんが来て、ものを売るのがお店の仕事」 ↓ 「お客さんに来てもらって商品を売るだけが『商店』ではない！ お客のニーズを考えることで、お店の人は様々な形態の商店を作り出すことができる」</p> <p><b>活用する学習の素材案</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の一般の商店</li> <li>インターネット販売（「商店」という設備はないが、ネットを通してさまざまな商品を取り扱い、発想可能）</li> <li>無人販売所</li> <li>「三河屋のサブちゃん（byサザエさん）」の御用聞き販売（お客のところに販売者が訪問して販売する）</li> </ul>	<p><b>概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>班対抗のお店屋さんごっこを通して、「お客さんに来てもらうためのより良い方法にはどんな方法があるだろう？」「なぜうまくいくのだろう？」を考える。</li> <li>それによって「もっとうまく売るための販売の方法を知りたい」という意欲を高め、それをもって、身の周りの商店の販売方法のくふうを知っていく。</li> </ul> <p><b>子どもたちに到達させたいこと！「ごっこ活動」で体験的に商店の販売を理解する。</b></p> <p>商店の実際の様子を理解することで、体験で得られた「消費者の様々なニーズに合わせて販売の方法をくふうしている」とこと、実社会の事実とをつなげる。</p> <p><b>活用する学習の素材案</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>班対抗の商店ごっこ</li> <li>スーパーマーケットなどの実際の商店</li> </ul>	<p><b>概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最近、地方の商店（街）は、ショッピングモールやチェーン店などの勢いに押され、衰退の一途をたどっている。あるいは人口減の中で商店不在地域も多い。</li> <li>「商店はなぜなくなってしまったのか、これからの商店は、街づくりはどうあればいいのか」を考え、これからの商店のありかた、その販売のくふうなどについて考え、提案していく。</li> </ul> <p><b>子どもたちに到達させたいこと！問題解決の能力を育てる</b></p> <p>商店街が寂れていく理由、市民（町の人たち）のニーズを考えながら、販売の方法を含めて、これからの商店街のありかたを考えていくことができる。</p> <p><b>活用する学習の素材案</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>衰退する商店街のさまざまな人から、問題を知る</li> <li>市町村の商工会の人と一緒に、解決案を考える</li> <li>ショッピングモールや郊外型チェーン店になぜ行くのか、そこにある魅力と、近くにある商店の魅力の共通点や違いを考える</li> </ul>

	XorYorZ案を推す 教材会社	XorYorZ案を推す 教材会社	校長先生 (A～Dタイプ)	校長先生 (A～Dタイプ)
4人	○	○	○	○
3人	○	○	○ 学校としてどれを採択するかを決める	
2人	○ 委託業者としてどれもを売り、良さを語る		○ 学校としてどれを採択するかを決める	
1人	単元の教材のタイプと学校にはどんな マッチングのパターンが考えられるかを予測・分析・解説する			

**padlet②で  
報告**

なぜ  
その採択なのか  
意志決定の理由を  
書く

マッチングの考え方には  
どういうものがある  
のか、算数のときと比  
較して解説する



### カリキュラムマネジメントをする教師

子どもたちの環境や実態 を捉えながら，望ましい世界を見すえて

社会や学問を生かしつつ，制度的なものを，解釈して

子どもたちに最適なカリキュラムをつくっていくこと。

「カリキュラムに使役される」から「カリキュラムを使役する」になること

命題⑬ 教科の教育課程のシーケンス（順序）原理は、複数のものがある。進歩の原理で捉えると「易→難」という段階的なシーケンスと、「周縁→中心」という螺旋的なシーケンスがある。

命題⑭ 階段型のシーケンスを取る算数教科であっても、教科書ごとには編成の違いが見られるし、アプローチの違いがある。ここには学習指導要領のふまえ方の違いや解釈の違いが見てとれる。つまり学習指導要領は解釈するものである。

命題⑮ 算数科と社会科においても、単元の設計や実施には、学校や子どもとの最適化のための解釈と判断が存在する。子どもの認知的発達だけではなく、学校や地域状況を見すえながら意志決定がなされる。

命題⑯ 学校や教師にも「カリキュラムマネジメント」が求められ、「カリキュラムをつくる側」に立つ必要がある。そのときには「制度的なもの」だけではなく「子どもや学校の地域状況や実態」「社会の動向や学問の動向」などを加味しながら「できること・実行可能なもの」だけではなく「望ましい方向性」を見すえながら今を運用していく必要がある。